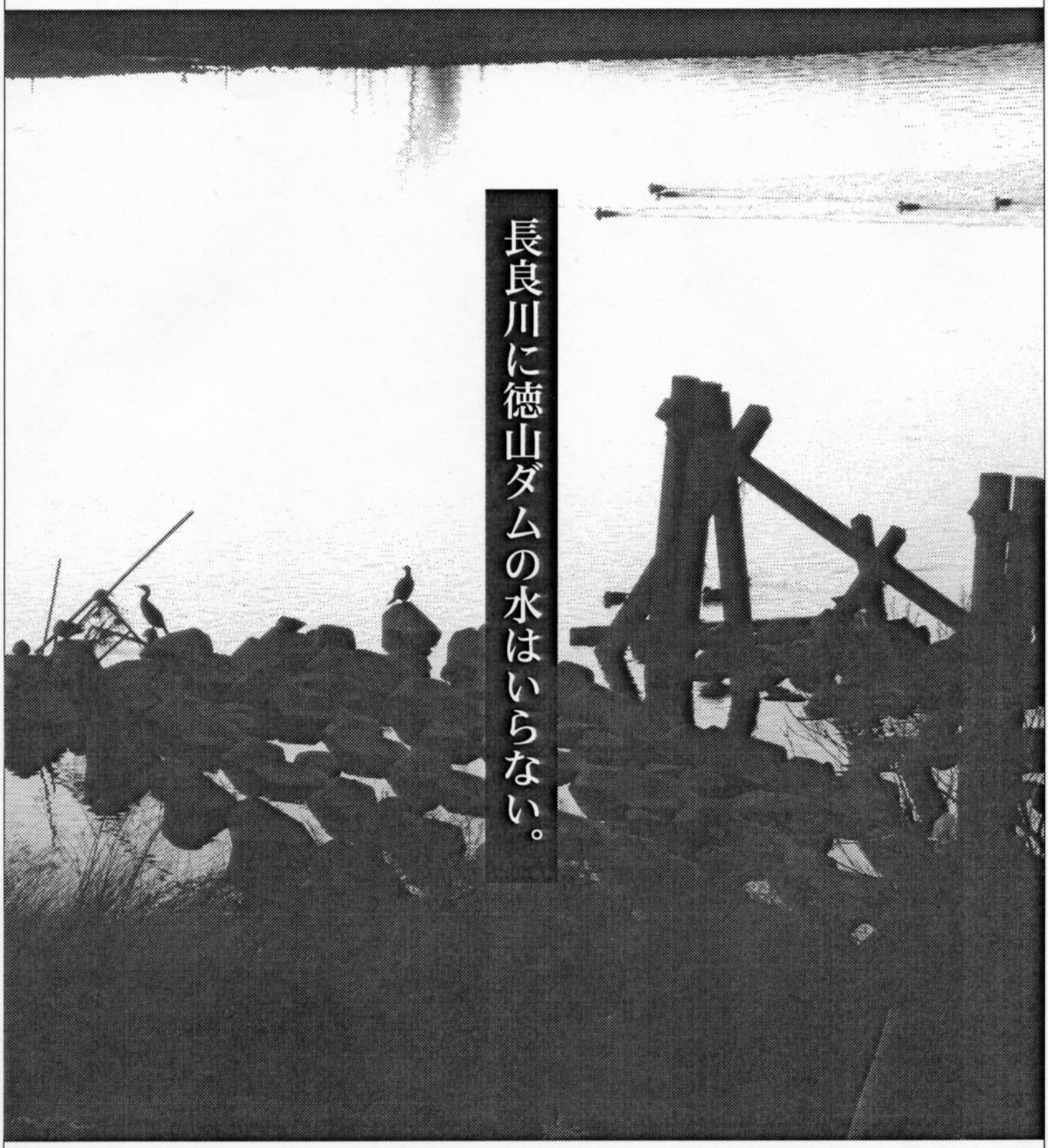
news

長良川市民学習会ニュース



No.5
2009年3月23日

表紙・目次(Photo粕谷志郎)……P. 1
「長良川への想い」第５回学習会報告 …P.2~6
「愛知の会」発足……P.7
情勢と活動報告……P. 8 ～10
声……P.11
校歌に歌われた長良川、事務局より……P.12

2009年2月7日　「長良川に徳山ダムの水はいらない」　第5回学習会講演要旨

長良川への想い

「長良川は今日も生きているか」（　今見る長良川の生態と自然　）

映像作家＆水中カメラマン・吉村朝之

長良川の源頭、大日ヶ岳の稜線から、クマササ帯を暫く下ると、ガレ場状の足場の悪い谷、つまり、長良川最源流、叺谷の出発点に下り立つ。ここから先は谷筋を下ることになるがやがてブナやミズナラなどからなる樹林帯が谷を覆いはじめる。

この谷だけに限らないが旧高鷲村の資料には、「谷筋の樹木の伐採は、何人たりとも許されない」といった教えが昔から今に継承されている。と記録にある。

このことはあえて言うまでもなく、そうした樹木が谷を覆いかつ、谷にまつわり絡むことで、出水から谷を守ることに他ならない。事実、伊勢湾台風など、記録される集中豪雨を数多く経験した谷でありながら、一度も崩壊するなどの大きな災害は受けていない。

思えばオランダの技師、ヨハネス・デレーケは、明治の河川改修の折り木曽三川を訪れている。その時「治水の原点」として「河川上流と流域の森林管理」を重視したが、長良川上流に暮らす人々は、デレーケ以前の江戸時代から、生活の知恵としてこのことを認知し管理していた。

ついでながらデレーケは、増水した川の水勢を穏やかに流す手法として川岸から流心に向け「ケレップ水制」を施すことを提案した。これは、今なお機能する河川工法であるが、要するに増水時の流れの破壊力を、こうした構築物で和らげるためのものである。

叺谷がいよいよその谷幅を広げる辺りから、谷底には大きな巨岩が積み重なるように点在している。この自然の形体が谷を猛烈な勢いで落下する水の勢いに抵抗を付けて緩め、谷を守っているのだ。これも「谷からは岩石を搬出しない」といった掟のお陰である。

長良川の最源流叺谷は、長良川では唯一の滝「夫婦滝」落下し、やがて廃村の「折立」を左岸に見てさらに下るが、通称「高鷲渓谷」を過ぎた先には発達した河岸段丘の中に旧高鷲村の町が展開する。

ここから先の長良川は、さらに段丘（川底盆地とも）を広げたその中を流れる。河川の区分からするとこの辺りは、れっきとした上流部に位置するが、その地形からはここはもう、中流域の形体を呈している。この所作こそが長良川を横断し遮断する大きなダム建設を拒んだ、その経緯なのだ。

前出のヨハネス・デレーケ、彼の河川工法の根本的なものに「川の水は連続して流れ続けるもの」といった思想があった。

流れが滞らない河川は、多くの酸素を含んだ冷たく澄んだ水を流す。これが川の浄化に寄与し多くの生き物を育んでいる。また、人々もその流れに育まれてきた。つまり、魚など川の資源をいただき、またその水を生活に農作物にと多用に活用し生業とした。まさに「流れは川の命、流域の命」であった。また一筋に繋がる流れは大きな道でもあった。このように人と川が密接であればあるほど流域に文化圏が形成されて行く。こうした関わりが成立する以上人々は、川そのものを守ろうとして来た。だが、川が暮しの中から消え、人々が流れから遠ざかった日から川は、ただの水路となった。

以上の歴史的な背景から現代社会は、流域に暮らす人々に代って、国が一括した河川管理をするに至った。そして新たな問題が生じると、もっとも手っ取り早い手段として人工的な構築物の建設によってそれを解決してきた。けれど、こうした国の河川管理のありかたは水問題にだけにこだわり、川本来の機能や流れの思想を置き去りにして来た。言い替えれば河川の役に立つ部分（人間に）には積極的だが、役に立たない部分はこれを見捨てきた。だから、水中の生き物はもとより、川岸の植生や小動物に至るまで、どれだけの犠牲を強いられてきたことかは、あえて記すまでもない。

この時局から鑑みるならば、今後の河川管理は技術論だけに長ける国の施策に委ねるのではなく、川を生業とする川漁師や、流域に暮らす人々など、流れと向き合う庶民こそが直接、主体的に関る河川管理のシステムを組み立て、築くことが重要であると考える。

「長良川は今日も生きているか」

流域に１００万人以上もの人々の暮らす長良川。驚くことにこの密度は、岐阜県全人口の半分を占める。１級河川の流呈のうち、８５％以上が両岸または片岸がコンクリートの護岸で固められた長良川。これを全国の１００km 以上の１級河川と比較するならば、日本で最も人工化された河川となる。

こんな長良川を自然河川、天然河川、日本を代表する清流などと形容することがはたしてできるのであろうか。

「今見る長良川の現実、私達はこれ以上、長良川を悪化させてはならない」

長良川　岐阜市内（河渡橋上流にて撮影）

吉村朝之（よしむら　ともゆき）

1944 年・岐阜県中津川市坂下町生まれ　アアクエイトテレビ代表取締役　「源流に棲む」（中京テレビ）「幻魚サツキマスの産卵を追え」（名古屋テレビ）など多数の作品で受賞。著書に「長良川雑記帳」「源流をたずねて１～５」（岐阜新聞出版）などがある。

「長良川に徳山ダムの水はいらない」 第5回学習会講演要旨

自分の子どもが大人になったときのことを想像してみると・・・

長良川流域持続可能研究会　蒲勇介

現在29歳で今年結婚する予定です。仮に来年子どもができたとして、彼 or 彼女が自分と同じ歳になるまであと30年。約30年後の2040年の日本の人口は現在と比べ2000万人以上も減って1億人ちょい。高齢化率は36.5%ですから、3人に1人はお年寄りという社会です。僕も還暦間近です。

今でも、石油があと40年くらい、ウランと天然ガスがあと60年くらい、石炭があと160年くらいしか持たないって言われているので、30 年後といったら石油枯渇が目の前に迫っています。1/3 がお年寄りの国に、今の日本のような国際競争力は期待できませんから、油田に残っていてもたぶん買えない、石油。お年寄りはたくさんいるけど、社会福祉制度にはたぶん期待できないだろうな、と正直思います。

介護保険どころか、国民健康保険や年金制度も破綻をきたすことは、容易に予想できてしまう。国内の農業従事者の人口グラフを見ると唖然としますが、食料自給率40%の今、農業人口556万人の高齢化率は37%！農業続けられるの？とも思ったり。

食もエネルギーも福祉も、今のままでは破綻！というこんな時代に大人になってしまった**僕たちとしては、自分の子どもに「なんでこんな世の中になるまで何もしなかったんだ！？」と恨まれないように、「生きていける地域」を作りたい。**なんで「社会」ではなくて「地域」かというと、やっぱり昔の岐阜人は、山々と長良川とが生み出したこの自然の中で、自分たちの生きる糧を戴いて、生きてきたということを学んだからです。

大きな「社会」という枠組みではなく、自分の足下である「地域」で、どう「そこにあるもので生きられる」ようにするのか。それが次の世代に対する唯一の責任の取り方だと思います。

そんなわけで、都市（岐阜）と農村（郡上）を繋ぐ、新しい食料流通と助け合いのプラットフォーム**「長良川流域生産者消費者協働組合　～長良川頼母子講～」**をどうやって実現しようか今、地域のじいさま、ばあさま達とお話をしております。

時間もかかるし大変かもしれんけど、こういうことをやんないと、自分の次の世代は、ここで生きていけないかもしれない。長良川に関わるあらゆる世代・立場の人が、その「世代」や「立場」は横に置いておいて、自分の子どもや孫が 30 年後、どうやって暮らしているか想像しながら、それぞれの仕事にがんばってもらえると、いいのではないかと思います。

2009年2月7日　「長良川に徳山ダムの水はいらない」　第5回学習会講演要旨

亀尾島川に内ヶ谷ダムはいらない

長良川水系・水を守る会・亀崎敬介

郡上市大和町内ヶ谷は亀尾島川上流の地名で昭和４０年代に集団離村し廃村となった。ここに岐阜県は治水を目的にダムを計画し1989年から取付道路工事が始まり、現在ダム予定地まで進めている。本体着工は数年先だが生コン工場建設、土砂の捨て場の工事も計画され内ヶ谷の自然は大きく壊されている。

八幡町から長良川を渡りトンネルをぬけると亀尾島川に出る。橋からは田口砂防ダムが見える。この堰堤がサツキマスの遡上止めになる。吉田川に比べると遡上止めが下流部になってしまうが、亀尾島川はここから内ヶ谷にある治山用の砂防ダムまで工作物（現在ダム工事中だが）は何も無い。吉田川や長良川本上流のように砂防ダムの連続した区間は無く、上流部では渓流魚が移動できる。

道を奥に進むと荒倉の集落で、これより上流には誰も住んでいない。この先は未舗装の道になり落石の石をよけながら慎重に進む。途中に廃墟の３階建ての建物が山の中に突然現れる。初めて見る人は、驚くだろう。林業の会社があったそうだ。オバーハングした岩を通り過ぎると、道には落石が多くなり更に道は悪くなる。川は垂直の崖下を流れ、降りる場所は無く、支流の白谷は滝で合流している。釣りをするならばこの辺りが亀尾島川ではベストだろう。白谷からモチ谷まで降りる所は少なくヒルやマムシ、増水の危険はあるが、渓相がよく尺アマゴもいる。

落石が少なくなり杉林に入ると道は山に向かうので、ここで車を降りる。川沿いの道が昔はあったが今は荒れて橋も無く草だらけである。支流のモチ谷を渡る。雪害木の杉林の中に廃墟の家が突然現れ、旧八幡町最奥の明原の集落。ケモノ道になる所で川に降りる。楽に降りれるが、目印は崖に引っかかっている車。昔はここまで車が通れたことに驚く。上流に進み小さな岩場に着くと、吊り橋の跡がある。川沿いに続く道の跡だ。地図には左岸側に下山の地名があるが川から離れている。この辺りから上流を内ヶ谷と呼んでいる。ネギ谷の出合で休憩。河原があって休憩にはもってこいの場所である。対岸には孟宗竹の林があり、人の暮らしがあった事がうかがえる。ネギ谷を過ぎると落差のないダラダラとした流れが源流まで続く。川岸の杉林で山菜のコゴミを収穫する。対岸はダム取付道路の工事現場。下流に向かっていた道路が大きくヘアピンしダムサイトに向きを直す所で、山の斜面は大きく削られ、支流の流れはU字工に変わっていた。

ダム直下の野生のワサビを収穫。工事が進むとコンクリートの中になるかもしれない。ダム予定地はダラダラした流れの内ヶ谷でただ一カ所川通しできない所で、両岸は切り立った岩盤になっている。腰まで水につかり、ダム予定地の岩盤を登る。昔の道は岩盤を削って造られており、道祖神が祀られている。道祖神には弘化三年（１８４６年）とあり江戸時代末期に造られたらしい。危険な所なので安全を祈願したのだろう。

予定地の岩盤を抜けるとそこは広い河原になっており気持ちのいい所で昼食にちょうどよい。ここから上会津の集落跡までは岩も大きくなりアマゴもよく釣れる。上会津は集団離村まで小学校があった集落である。左岸の平坦地にダム本体用の生コン工場を造るそうだ。既に樹木は伐採されている。左岸側は工事用道路が完成し、右岸には林道の付け替え工事が進んでいる。道路工事中はたくさんの土砂が川に流れ込み淵は埋まり浅くなった。右岸林道は２００２年に道上部の山腹から地滑りを起こし、谷底に溜まった土砂が増水で流され下流の淵が埋まった。

上会津の集落跡は水に沈み上流の工事用のゲートの少し下流までダム湖となる。

内ヶ谷ツアー　ダム予定地で　　2008年5月

長良川水系・水を守る会ではダム予定地まで川を歩く内ヶ谷ツアーを行ないます。

- ・メールで水を守る会事務局まで申し込んでください。amago_utigatani@yahoo.co.jp
- ・日時 4月19日午前７時 長良川鉄道 郡上八幡駅 駐車場集合　現地へ移動し9時頃遡行開始16時頃終了
- ・昼食, 帽子,軍手,カッパ。服装は沢登り・渓流釣りの格好
- ・詳しく長良川水系・水を守る会ブログhttp://nagarariver.blog10.fc2.com/をご覧ください。

長良川への想い　第２部　パネルディスカッション

講演に引続いて富樫幸一市民学習会副代表の司会で，３名のパネリストと会場の参加者も交えて活発な意見交換が行われました。

向井貴彦(岐大)：　生物を専門としている私にとって，真水と海水の混じり合う汽水域の重要性はよく分かっていたが，今回映像で拝見しその思いを新たにした。

吉村朝之：　河口堰はその汽水域を無くし，上流域の開発と相まって長良川を変えてしまった。このうえ違う川の水を入れていいのか。そんなことをすると川の匂いが変わるのではないか，河口で魚が迷うのではないだろうか。魚には故郷の川に帰るという母川回帰という習性がある。自然にはまだまだ分からないことが一杯ある。

市民A：最近，鮎は遡上が遅れたり，いつまでも川に残っていたりする。放流が多くなり天然鮎と変わってしまったような気がする。サツキマスも斑点があったり，色が妙に赤っぽい変なものが増えている。

市民B：サツキマスの放流は２５年頃前から放流がはじまり，種類も俗にアカ，アオというように養殖業者によって複数ある。最近は釣り人に人気があるというアカがよく釣れる。

市民C：揖斐川で鮎を釣ってきたがダムができてからは行かない。揖斐川と長良川の鮎は違う。

吉村：揖斐川と長良川は水温が違う。低いと育ちは悪いし，その違いは食べれば分かる。サツキマスについては生態などまだまだ謎が多い。これからも現場で調べていきたい。

司会：地域づくりに取り組んでいる若い人たちのご意見は？

平野馨生里：岐阜の伝統工芸品である「水うちわ」に出会い魅せられ，その復活に関わるうちに，今まで知らなかった川の文化を知ることができた。川によって非常に多くの人たちが密接に繋がり生きていることを学んだ。

蒲勇介：僕自身は郡上で育ち，鮎やゴリなど川のおいしい魚を食べたこともあるし，川に対する怖さも経験している。しかし今，岐阜の若者には川との繋がりはほとんどないので，川への想いも怖さも感謝の念もないのではないかと思う。しかしこの地でこれから生きて行く我々は，この地域にあるものを活かしていくしかない。長良川はこの地域で生きて行くため，未来のために守らねばならないと思っている。

市民D：岐阜県の借金の額に目を疑った。およそ１兆３０００億円。利息支払いだけで年間２２５億円，毎日６１５０万円！こんな借金を若い人たちに残して申し訳ない。

亀崎敬介：僕の故郷の熊本県では川辺川ダムの建設が中止になった。岐阜ではなぜ長良川が守れなかったのだろう。熊本県も岐阜県と同じような保守王国。熊本では川辺川の反対運動のことが流域の違う地域でも話題になるが，岐阜県では，例えば郡上では徳山のことは話題にならない。歴史的なこともあるのかもしれないが，その理由の一つはマスコミの対応にあると思う。熊本では４つのテレビが競って地元のニュースを流すけれど，岐阜では，名古屋を向いていて岐阜独自の情報が少ないと思う。そのため自分は東海人という感覚が生まれ，岐阜県民の意識が薄れるのではないか。地元で河口堰や徳山ダムの反対運動が盛り上がらなかった一つの理由ではないかと考えている。　（文責：田中）

３月１日に「導水路はいらない！愛知の会」が発足しました！

共同代表・事務局長　加藤伸久

１　はじめに

ムダにムダを重ねる「導水路」建設について、愛知でも反対運動をと昨年１２月、有志が呼びかけ人となって「導水路はいらない！愛知の会」準備会を結成しました。

「会」では具体的なアクションとして、①公金の支出差し止めなどを求めて住民監査請求をする　②住民監査請求前に県の「導水路」問題についての見識を質す　③３月１日に発足集会を開催する　④住民監査請求が認められないときには、県知事を被告として公金支出訴訟を提訴する　ことなどを取り決めました。

２　愛知県との交渉でわかったこと

１００年に一度の不況で、県税収入が４９００億円も減収となる厳しい財政のもと、３１８億円もの公金をムダ使いする「導水路事業」建設について、県の回答は「造るのが目的で、効果は後付理由」でしかありませんでした。

とりわけ、「会」の質問＜①「導水路事業」建設に至る政策決定の経緯と根拠は？②渇水時における流量維持の科学的根拠と新規利水の供給先は？＞　などには無視を決め込み、＜①平成６年渇水がトラウマ、渇水に備える徳山ダムができて嬉しい　②（徳山ダムが）出来ちゃった以上.... 導水路は必要＞と、耳を疑う回答でした。

３　盛会の発足集会

集会は３月１日、中区桜華会館で開かれ、定員６４名の会議室には「市民学習会」「設楽ダム」「新川訴訟」を始め、多くの参加者で満員となり、補助いすを出すほどでした。

第一部の発足総会では、活動経過と今後の取り組みがた、会則を承認。次いで役員を選出しました。第二部の記念講演では法政大の伊藤達也教授が、「導水路」問題の要点をわかりやすく講義。その後、在間弁護士が「住民監査請求→住民訴訟」の意義や手続きを説明しました。また、市民学習会の武藤事務局長からは「岐阜での取り組み」を熱く語った後、「愛知の会」と連携して運動を取り組みたいと連帯挨拶を戴きました。

４　おわりに

「会」では、ムダにムダを重ねる「導水路」建設に税金を使わせないため、住民監査請求（３月１日現在４０２名の監査請求人を集約、第一次集約の３月１０日までに５００名目標）が認められない場合、ただちに住民訴訟に移行する予定です。

これからも「市民学習会」「設楽ダム」「新川訴訟」の皆さんと連携し、学習会や現地調査、国・自治体との交渉や裁判の傍聴　などを協働して取り組み、運動を進めていきたいと考えています。「導水路」建設の中止まで共に頑張りましょう！

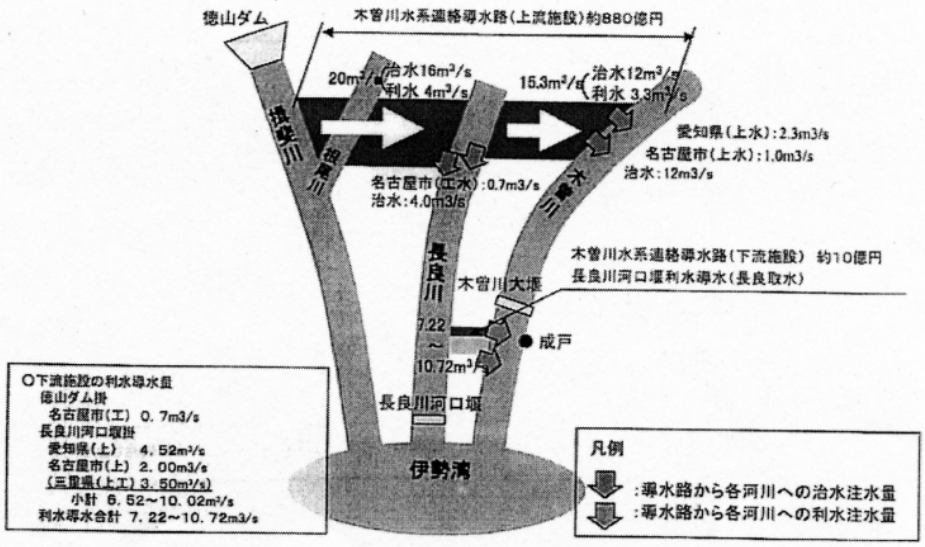
導水路をめぐる情勢と「長良川市民学習会」の活動報告

長良川市民学習会事務局

NEWS4 号（09.12/1）でお知らせした以降の情勢と市民学習会の活動を報告します。

なぜ、導水路の水を長良川に流すことになったのか？

情報公開を迫る市民の声に、昨年 10 月、国（中部地方整備局）が「徳山ダムに係る連絡導水路検討会幹事会等資料」を初めて開示したことは既報のとおりです。導水路の下流施設を長良川河口堰取水の兼用施設として一貫して議論されてきたことが明らかになり「長良川への導水のねらい」があぶり出てきました。



（開示された「兼用案」資料　平成 19 年 6 月 13 日「木曽川水系連絡調整会議」資料より）

岐阜県　議会でもこの問題が取り上げられ、古田知事は「将来にわたって県として兼用を認めることはない」、県土整備部長は「兼用案は廃案とされた」とそれぞれ答弁しました。（岐阜新聞）

年も押し迫った 12 月 22 日、着工への動きを止めるために市民学習会は岐阜県に「厳しい財政状況の中、県は国に事業の休止を求めるよう」緊急要請行動を行いました。堂薗河川課長は私たちの要請の趣旨を知事に伝えるとともに県民の理解がない限り着工は認めないことを明言しました。

国交省中部地方整備局　市民学習会は年が明けた 1 月 13 日名古屋市において国と交渉を行いました。国は岐阜県から 119 項目もの質問などの対応が大変なよう（第 6 回環境検討委員会を開催するにあたって環境レポートを 200 か所以上も修正しなければならないドタバタ状態）です。しかし「環境検討会の準備・遅れ」を理由に市民との対話を閉ざしている国の姿勢は筋違いです。市民は導水路工事で環境がどうなるか以前に、なぜ導水路事業が必要なのか？事業そのものを問うているのです。導水路の水を長良川に流すことになった理由に「河口堰の水の活用」があったことが明らかになった今、国はその説明を速やかにするべきです。交渉の中で椙田調整官は「今後も兼用を求める利水者があるなら協議することになる」と下流施設兼用が課題になったままであることを明らかにしました。

2008. 12／12岐阜新聞

木曽川水系導水路施設

長良川河口堰利水と兼用、知事「認めず」

木曽川水系連絡導水路の施設で長良川河口堰（せき）の水利用を兼用する計画が検討されていたことに絡み、古田肇知事は十一日の県議会の一般質問で、「将来にわたって県として兼用を認めることはない」と述べ、連絡導水路と河口堰の利水導水は別の事業との認識を強調した。

導水路は揖斐川上流の徳山ダム（揖斐郡揖斐川町）の水を木曽川に流す上流施設と、一部を長良川を経由して木曽川に流す下流施設をつくる計画。この下流施設で河口堰の水を木曽川に送る兼用案が検討された。

棚瀬直美県土整備部長も「兼用案は廃案とされた。連絡導水路は長良川河口堰の利水導水とは全く別もの。国土交通省も同様の見解だと確認している」と答弁した。

愛知県　私たちが「導水路はいらない！愛知の会」の皆さんと2月17日愛知県を訪れた際、土地水資源課の山本主幹は「兼用案は廃案となっていない。合意できなかっただけで、愛知県は引き続き要請していく」ことを明らかにしました。国や愛知県は岐阜県知事の「将来にわたって兼用を認めない」発言を歯牙にも留めない姿勢です。

暗い過去を引きずった「長良川への導水計画」

「兼用」しようという根強い動きはいったいどこから出てくるのでしょう。最近開示された資料で判ってきました。その資料とは、河口堰着工直前の昭和62年4月、河口堰運用を控えた平成5年8月及び徳山ダム建設事業実施計画変更協議の時期16年7月に国が愛知県・名古屋市に対し「河口堰開発水等の取水位置に係る」確認や回答をした文書です。

河口堰建設においては工水の需要見込みを失い建設費負担ができなくなった三重県は建設に消極となり着工にあたって大きな障害になりました。しかし、この問題は三重県工水の水利権を愛知県、名古屋市がそれぞれ毎秒3.9m^3、0.1m^{3}を引き受ける（建設費負担する）ことで調整され、着工が決定。事業者である国をホッとさせました。その際、欲しくもないこの水利権を「買わされた」愛知県、名古屋市は、「河口堰で確保する水は木曽川大堰を利用できる取水位置で」という要望を出し国はそれを「尊重する」と昭和62年に回答しました。ところが知多半島へ導く長良川導水路の取水口は堰直上流に決定。愛知県は「約束が違う」と国に問い糺すとともに今後残りの河口堰の水利権分については要望する位置で取水することを平成5年に確認しました。また、平成16年の文書では、国は「徳山ダムおよび長良川河口堰で開発した水の導水については愛知県、名古屋市の既存の取水・導水施設が有効に利用できるよう協力する」ことを確認しています。タテマエで国は「河口堰の水は堰上流で取水するのが原則」と答えますが、実際そうはならない背景にはこれらの経過があるからでしょう。

国民の反対を押し切って建設してしまった河口堰の「暗い過去」の影で「徳山ダムの水を長良川に流す」という市民には到底理解できない理不尽な計画ができました。必要でない公共事業の後には必ず「つじつま合わせの新たな事業」が作られます。先日の愛知県交渉で「なぜ愛知県は導水路事業を進めるのか？」という私たちの追及に、山本主幹は開口一番「徳山ダムがデキてしまったから」と「正直」

確　認　事　項

国土交通省中部地方整備局（以下、「整備局」という。）と名古屋市は、徳山ダム建設事業実施計画変更協議にあたり、下記事項を確認する。

記

1. 整備局は、今回の木曽川水系における水資源開発基本計画の改定作業での水資源分科会ならびに同木曽川部会での議論を踏まえ、木曽川水系の水資源安定供給確保および有効利用に努めるものとする。

2. 整備局は、名古屋市が徳山ダムおよび長良川河口堰で開発した水の木曽川への導水について、名古屋市の既存の取水・導水施設が有効に利用できるよう協力するとともに、導水施設の完成に合わせて水利使用が開始できるよう協力するものとする。

平成16年7月8日

国土交通省　中部地方整備局　河川部長　中野泰雄

名古屋市　上下水道局長　山田雅雄

長良川の環境を「悪化させないで」

岐阜で導水路学習会

木曽川下流域へ徳山ダムの水を送る導水路の建設計画について、長良川の一部をルートとする案に反対している「長良川に徳山ダムの水はいらない」市民学習会実行委員会（代表・粕谷志郎岐阜大教授）がこのほど、岐阜市で学習会を開き、市民約130人が参加した。

映像作家で水中カメラマンの吉村朝之さんが、長良川に生息する魚類や長良川河口堰（三重県桑名市）付近の映像を紹介しながら基調講演し、「河口堰の建設により、あらゆる生物が少なくなった。これ以上、環境を悪化させてはいけない」と訴えた。その後、吉村さんやまちづくりに取り組むデザイナーの蒲勇介さん（鮫）らによるパネルディスカッションがあった。蒲さんは「次世代の子どもたちのために自然を守りたい。そうした考えを建設的に結びつける運動にしていこう」と呼びかけた。【鈴木敬

長良川への思いを語るパネリストたち

2009.2/14 毎日新聞

な回答。交渉団一同唖然！！

立ち上げて１年経った長良川市民学習会の活動

1月31日朝日新聞朝刊に「なぜ長良川に徳山ダムの水を流さなければならないのか？」意見広告（全面）を載せました。県民から大きな反響がありました。1週間後に開催した第5回市民学習会「長良川への想い」には会場満員の130名の市民が詰めかけましたが、その半分の65名の皆さんは初参加の人で「長良川のこれから」を心配する真剣な市民でした。学習会で上映された吉村さんの「今見る長良川の自然と生態」は、とてもリアルでダイナミックな映像で大好評でしたが時間の制限で、河口堰の場面が上映できず悔やまれました。是非続編を観たい！との声に応え4月14日㈫ハートフルスクエアG大研修室において、専門家の討論も合わせた第6回市民学習会「長良川への想いパートⅡ」を計画しました。ぜひご参加ください。またシンポジウム「長良川への想い」では若い世代の蒲さん亀崎さんが登場し明日の長良川を考えた活動が語られ、世代をつなぐ取組が期待されました。

徳山ダム

導水路着工後ずれ

環境調査徹底 新年度に

揖斐川上流の徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の貯水を長良川と木曽川に流す導水路事業で、事業を進める国と水資源機構が予定していた工事の着工時期が、岐阜県が求める環境調査の徹底などで遅れ、二〇〇八年度内からの九年度にずれ込むことが十日、分かった。

水資源機構の担当者は十日の配者会見で「三月末までの着工は大変厳しい」と述べるにとどめた。しかし、国と機構は環境アセスメント法に準じる形で環境への影響を調査中で、関係自治体や住民の意見聴取の手続きに要する期間などから、〇九年度へのずれ込みが確実となっている。

岐阜県は一〇年に長良川を舞台に「全国豊かな海づくり大会」を開くこともあり、事業が環境に及ぼす影響を警戒。昨年十一月、国と機構が示した調査項目や手法に百十九項目の意見を提出し、着工前に知事と協議する確約を双方から取っている。

木曽川水系連絡導水路事業　主に愛知県と名古屋市が徳山ダムの水を利用するため、揖斐川から双方の取水施設がある木曽川に直径4㍍、全長43㌔の地下水路を引く計画。2015年度完成予定。総事業費890億円で国と愛知、岐阜、三重各県、名古屋市が負担する。

2009. 2/11　中日新聞

2009.1/31 中日新聞

徳山ダム導水路

「愛知県の318億円負担違法」

反対派住民監査請求へ

徳山ダム（岐阜県揖斐川町）の水を下流域で利用する木曽川水系連絡導水路事業で、愛知県が三百十八億円を負担するのは違法として、導水路建設に反対する愛知県内の住民グループが三月にも県監査委員に県費の支出差し止めなどを求める住民監査請求をする。

この事業では、岐阜県内の住民グループが、環境悪化などを懸念して反対運動をしているが、住民監査請求の動きが具体化するのは初めて。

愛知県は二〇〇九年度予算で大幅な財源不足が生じる見込み。全国的にダム建設見直しの動きも広がる中、巨大事業に巨額な税金をつぎ込むことをめぐり、議論を呼びそうだ。

「導水路はいらない！愛知の会」の準備会（☎〇〇＝名古屋市瑞穂区）らが請求人を集めている。長良川河口堰や徳山ダムなどの訴訟に携わった在間正史弁護士らが代理人を務め、将来的には住民訴訟も視野に入れている。

愛知県と名古屋市は主に水道、工業用水として徳山ダムに確保した水を取水施設がある木曽川まで引く利水目的で導水路建設に期待。同事業は渇水時には放流で木曽、長良両川の水量を確保する目的もあり、岐阜、三重両県は治水目的で事業を推進している。

請求では▽水の需要は頭打ちで新規利水の必要はない▽水量確保の根拠が科学的でない―と主張する方針。

在間弁護士は「導水路は河口堰や徳山ダムという無駄な事業にさらに無駄を重ねるだけだ」と批判している。

木曽川水系連絡導水路事業　徳山ダムの下流から木曽川まで直径4㍍、全長43㌔の地下トンネルで結ぶ計画。導水の一部は長良川を経由させ、下流からパイプラインで水系木曽川に戻す。水資源機構（さいたま市）が国から事業を引き継ぎ2015年度の完成を目指す。08年度着工の予定だったが、09年度にずれ込む可能性が高い。総事業費は890億円で、国と愛知、岐阜、三重各県、名古屋市が負担する。

この１年、様々な取り組みを展開してきました。「なぜ長良川にダムの水が？」の声は市民に広がり、年度内着工はなんとか阻止することができました。国は事業の説明を「先延ばし」しています。追及の手を緩めてはなりません。運動をさらに強めましょう！私たちは月１回西平ダムと長良川の千鳥橋において定例の水温調査活動をしています。これらの地味で多様な取り組みが国を追い詰めています。多くの市民の人手と資金協力が必要です。皆さまの活動への参加や資金援助をお願いいたします。

最後に**ビッグニュース**。導水路事業費の最大負担者である愛知県において「導水路の水はいらない！」の運動が始まりました。県に対して導水路事業への公金支出差止訴訟を前提にした住民監査請求です。この運動を担う「導水路はいらない！愛知の会」の発足総会が３月１日名古屋市で行われました。総会は約70名の市民で満員。監査請求人名簿も400名を越し、目標を500名に上乗せする勢いでスタートしました。長良川市民学習会も熱いエールを披露し今後の連帯を約束しました。愛知県外の人は請求人や原告にはなれませんが「愛知の会」（年会費2000円）には入会できますので是非協力してください。

みなさんからの声

カンパやお手紙をありがとうございました。

＊私は関市上之保で生まれ育ちました。津保川（長良川支流）は変わり果て昔の姿はありません。上之保へ行く度，哀しい思いをしています。今，川には魚の姿は全くというほど見られません。死の川です。徳山ダムの水を入れたらもっと駄目になるでしょう。（９０歳）

＊私たちのところも貴所と同じ手法で，行政は賛成者には手厚く，反対者には冷酷に差別して対応し，情報は極力または全く出さないで無言でどんどん進行し，既成事実を積み上げ，もうここまで進んだんだから完成させたいと，だだっ子のようです。共闘して頑張りましょう。応援します。（香川県小豆島　国立公園寒霞渓の自然と共に生きる会　新内海ダム建設反対）

＊長良川（長良橋）近くに住んでいます。何が何でも徳山ダムの水は長良川に流して欲しくないです。よろしくお願いします。

＊ご多忙な皆様方の熱意とご奉仕に心からお礼申し上げます。沢山できませんが役立ててください。どうかこの運動が広がり，国や県のいいかげんな行政をあらためさせることができますよう，よろしくお願いいたします。

＊長良川の活動があることが，私たちに安心と希望を感じさせてくれるように思います。何も手伝えませんが，気持ちで手伝いたいと思っています。

＊１１月初め，はじめて徳山ダムを見る機会を得ました。紅葉の美しい峰々の中腹まで浸水していました。水機構の職員はダムの水は導水路で活用されると説明。しかし，下流域の市民の声はこれ以上の水は不要，水路は莫大な税金が伴い我々にそのツケがまわってくるよ，と口をはさむと説明員の話は中断しました。（中津川Ｓ）

＊学習会のニュースありがとうございました。勉強になります。長良川は守らねばなりません。僅かですがカンパを送ります。

＊また参加します。よい方向に向かうよう祈っています。

＊私は子どものころから，夏は毎日長良川で泳いできました。今から４年まえ，90歳で水泳はやめましたが，私は長良川のきれいな水と美しい風景をこよなく愛しそれを誇りにしてきました。
その長良川の河口にダムを作るという理不尽な話を聞き，私も反対運動に加わりました。残念ながらダムはできてしまいましたが，こんどは徳山ダムの水を長良川に垂れ流す計画だというのです。政治家や官僚は岐阜県の水と自然をなにものと考えているのか，彼らの不遜な傲慢をこれ以上許すことはできないと腹立たしく思っていた矢先です。貴会らの運動に少しでも役に立ちたいというのが私の心です。
私は青年時代の思索のなかで，真理と正義に第一義的な価値を見出し，世俗的・経済的な価値を第二義的に感じるような行き方をしようと心に決めました。その点では貴会の皆さんと通じるところがあると思います。
私は現在老齢でなんの活動もできませんので，せめてもの財政的支援です。（美濃市Ｍ）

校歌に歌われた長良川 ⑤

岐阜市立日野小学校校歌

作詞／平光 善久
作曲／恩田 忠彦

舟伏山に登る日が
窓いっぱいにさしこんで
学びの庭に朝がくる
正しく深い考えで
未来の夢を描くのは
日野の子われら
日野の子われら　あゝ日野小学校

長良の水の輝きが
空いっぱいに広がって
進みてやまぬ意気高く
恵み豊かな花も咲く
仲よく肩をくみあって
理想の世界築くのは
日野の子われら
日野の子われら　あゝ日野小学校

日野小学校は、金華山の東、長良川畔に位置する大変歴史の古い学校です。対岸が徳山ダムの水を、長良川へ放流する予定地の古津です。

事務局より

汽水域が消滅した長良川で、孵化したアユが本当に海に降れるのかどうか、昨年は関心をもって見てきました。今年はどのくらい稚アユが上がっているか、河口堰の左右の魚道を中心に注視をしてみたいと思っています。２月１８日河口堰管理所でＳ副所長は、今年も２月10日に８ｃｍのアユ１尾の遡上が確認されましたと胸を張りました。　（長良川をまもり隊）粕谷豊樹

長良川はコンクリート護岸などによる人工化率がなんと８５％、全国一！だそうです。知りませんでした。清流、自然河川という言葉にまだ幻想をいだいていました。　（万）

好評「長良川への想い」のパートⅡと「トーク＆コンサート」を計画しています。ぜひ、ご参加ください！

「長良川への想い」パートⅡ

４月14日（火）18:30～ハートフルスクエアG大研修室

吉村さん撮影の河口堰運用後の長良川の映像を観た後、粕谷、山内、向井、古屋先生を囲んで、長良川の現状や、対話を閉ざしたままで国が一方的に出してきた「環境レポート」などについて討論します。

「トーク＆コンサート長良川」

〈企画中〉

６月６日（土）午後　岐阜市文化センターホール

笠木透＆雑花塾の「長良川を歌う」コンサートと高橋恒美さん（「鮎鮨街道いま昔」の著者）、蒲勇介さん（町づくり団体「ORGAN」代表）らによるトーク「長良川の歴史とまちづくり」で長良川づくしの１日を満喫しましょう。

発行：長良川市民学習会（「長良川に徳山ダムの水はいらない」市民学習会実行委員会）

代表：粕谷志郎／岐阜大学教授
連絡先：武藤　仁／０９０-１２８４-１２９８　〒500-8211　岐阜市日野東7-11-1
http://dousui.org/（新しくなりました。ぜひご覧ください。）

●私たちの運動はみなさんのカンパで成り立っています。賛同してくださる方はぜひカンパをお願いします。
郵便局口座番号：００840-3-１５８４０３　口座名称：長良川市民学習会